



メッセンジャーと対面する来場者＝奈良市東向中町の近鉄奈良駅前行基広場

被害者らに思いを寄せ

犯罪や交通事故、いじめや医療過誤などで理不尽に命を奪われた犠牲者を主役に命の重さを伝えるアート展「生命(いのち)のメッセージ展」が、奈良市の近鉄奈良駅前行基広場で開かれている。13日まで。

生命の輝きを 見つめ直して

あす
まで 奈良でメッセンジャー展

犯罪被害者週間(25日～12月1日)に合わせて毎年行われる「犯罪被害者支援県民のつどい」(なら犯罪被害者支援センター、県、県警主催)の一環。被害者

の身長と同じ高さの人型パネル(メッセンジャー)に生前の写真、使用靴、命を奪われた経緯、家族の言葉を添えたパネルを展示し「今、生きていることの素晴らしさ」を伝える内容。

会場には30体のメッセンジャーが展示され、来場者が感想を記したシールを貼り付けるボードを用意。シールには「悲しい思いをする方がいなくなる社会を願っています」「運転は『怖いこと』という自覚をもって安全運転をしよう!」などの声が寄せられている。平成12年に長男健仁さん(当時18)を交通事故で亡くし、同展開催を学校現場などに広げる活動をする奈良市の児島早苗さん(70)「NPO法人KEN TO代表」は「犯罪被害は突然、誰の身にも襲いかか

る。地域の皆さんには被害者家族を遠巻きに好奇心で眺めるのではなく『これまでと変わりなく地域の一人だよ』と見守ってほしい。メッセンジャー展などを通して被害者の置かれる立場を知り、ご家族で話し合ってもらいたい」と話す。

午前11時から午後3時開場。24～27日には香芝市ふたかみ文化センターでも開かれる。